

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 10日現在

機関番号：82610

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22792154

研究課題名(和文) 患者の情報プライバシーを考慮した看護退院サマリーによる医療施設間情報共有のあり方

研究課題名(英文) Information sharing between medical institutions through nursing discharge summaries with consideration of patient privacy

研究代表者

守田 恵理子 (MORITA ERIKO)

独立行政法人 国立国際医療研究センター・老年看護学・講師

研究者番号：10423849

研究成果の概要(和文)：本研究は、看護退院サマリー(以下サマリー)を受け取る施設におけるサマリー情報の取り扱いの現状と、サマリーで情報を授受される患者・家族の要望を明らかにすることで、施設間の情報の授受に関する課題を明確にすることを目的にした。結果、サマリーを受け取る多くの施設が施錠をしない棚でサマリーを保管していた。また、サマリー情報について、施設内で情報共有制限の必要と回答したものは22.9%であり、その理由は患者・家族へのプライバシーの保護(69.7%)、職種により情報の必要性が違う(45.5%)だった。サマリー情報は患者・家族、施設内の全職種と共有していた。また、一般企業に勤務する成人の調査では、サマリーを知っているものは4.2%であり、サマリーについて病院で説明されたものは12.5%だった。サマリーによる他施設への情報提供について、58.3%が積極的な情報共有を望んでいた。サマリー項目で、生活関連情報については「概要のみ共有」と回答するものが多い傾向にあり、治療関連情報、介護関連情報は「できるだけ詳しく共有」と回答するものが多い傾向がみられた。プライバシーへの配慮を求める傾向にある項目は治療関連情報であり、プライバシー意識が比較的低い項目は介護関連情報だった。面接調査では、サマリーによる情報共有は、自分自身の場合と家族の場合では意識が異なるという意見が聞かれた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to elucidate the handling of nursing discharge summaries in facilities for the elderly and the wishes of patients and families whose information is shared, and from this to identify issues related to information sharing between facilities. Results: In many facilities the summaries are kept on unlocked shelves. The percentage of respondents who said that limits on information sharing within a facility were needed for the information written in the summaries was 22.9%. The reasons were (1) protection of patient and family privacy (66.7%) and (2) that information needs differ depending on job type (45.5%). The information written in the summaries is shared by patients, families and people of all job types in a facility. In a survey of adults working in a general company, 4.2% responded that they knew their summaries and 12.5% said that they had received an explanation about these summaries at a hospital. With regard to providing information to other facilities through the summaries, 58.3% of people wanted information to be actively shared. With regard to information on their daily lives, many people responded that they wanted it to be shared "in outline only," while many responded that they wanted information related to medical and nursing care to be shared "in as much detail as possible." In the interview some people expressed the opinion that they viewed information sharing through summaries differently when they themselves were examined and when family members were examined.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900.000	270.000	1.170.000
2011年度	500.000	150.000	650.000
2012年度	500.000	150.000	650.000
総計	1500.000	450.000	2.470.000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学、基礎看護学

キーワード：看護、退院サマリー、情報共有、情報プライバシー

1. 研究開始当初の背景

医療現場では、安全な医療を遂行するために、医療者間での情報共有は不可欠である。看護においても、患者が他施設へ転院するときには看護退院サマリー（以下サマリーとする）による情報提供が行われている。しかし、サマリーによる情報提供にあたり、多くの施設では患者へのサマリー内容の提示、サマリー送付について同意の取得がされておらず、患者の自己情報コントロール権の観点からの検討が必要であると考えられる。

看護情報の看護退院サマリー（以下サマリーと呼ぶ）による情報提供に関しては、柏木らのサマリ－の基本データ構造に関する研究、医療機関から訪問看護ステーションなどに提供されるサマリー情報の記載状況に関する研究がすすめられている。

継続的に医療提供の必要な患者の退院時に、看護においては転院先の医療施設や訪問看護ステーションへサマリーによる医療情報の提供を行っている。そのサマリーへの情報の記載状況の検討がなされており、医療施設から提供されるサマリー情報には、訪問看護ステーション側が必要であると考えられる情報の記載率が低いことが明らかになっており（柏木、水流、2002）、サマリーに記載されるべき情報の検討が進められている。また、サマリー送付時における患者・患者の家族への同意の確認に関しては、小林らが、医療者が記入した退院情報提供書の送付にあたり患者（または家族）

が確認し署名をしていることを報告しているが、この研究以外にサマリー送付における患者への同意の取得に関する報告はなく、同意の取得の必要性について述べられている研究はなかった。

入院中の患者と看護師のプライバシー意識について、長井が報告をしている（2004）。入院初期における情報収集場面でのプライバシーの意識は、患者よりも看護師のほうがプライバシーに関して敏感であり、看護師は情報収集の説明責任と役割を認識しているとされている。

しかし、プライバシーの概念は、以前の「そつとしておいてもらう」という伝統的概念から「自己の情報をコントロールする」という現代的概念に変化してきており（船越、2001）、今後個人のプライバシーに対する関心が高まることが考えられる。2003年に内閣府が行った「個人情報に関する世論調査」では、個人情報保護の問題について半数以上の人が関心を持っていることが報告されている。

このような中、米国では全米の病院を対象とするプライバシー保護法（HIPAA法）が成立し、2003年に施行された。初年度に人権保護局に寄せられた苦情5648件のうち、約6割はプライバシールールの理解不足からくる苦情であり、運用において様々な問題があることが報告された。

個人情報保護法が施行されて10年経過した日本においても、米国と同様に個人情報保護に関する関心が高まるにつれて、苦情の申し立てをする

人が増えることが考えられる。

医療者の情報共有に関して太田らは(2005)、入院患者と看護師間において、患者情報のプライバシーと情報共有のあり方の捉え方には大きな差異はなく、患者は医療職者が病棟内での情報を十分共有してくれることに安心感を持っているが、入院病棟以外の医療職者との情報共有は自分の治療・ケアに関わる部分のみの情報共有を求めている、と報告している。入院患者は同一施設内においても通常接することのない医療職者に対して情報の制限を行いたいという希望があるが、患者のことを知る医療職者のいない他施設へ看護師が医療情報の提供をするとき、患者はより一層、情報の制限を行いたいと感じるのではないだろうか。

このように個人のプライバシー意識が高まる中、個人情報保護法を遵守しながら一般的におこなわれているサマリーによる施設間の情報共有が、患者のプライバシー保護の観点から様々な問題が提起されることが懸念される。

2. 研究の目的

【調査1】

①他施設にサマリーを送付する際の医療施設における患者・患者の家族への対応について現状を明らかにする。

②サマリーを受け取る施設におけるサマリー情報の取り扱い、サマリーに対する要望を明らかにする。

【調査2】

①サマリーにより情報を授受される患者・患者の家族の要望を明らかにする。

調査1)、2)から、情報共有の現状を明らかにして、患者の自己情報コントロール権に即した施設間の情報共有に関する課題を明確にする。

3. 研究の方法

【調査1】看護退院サマリーによる情報共有の実態

(1)対象：A県内の医療施設、高齢者保健・福祉施設、訪問看護ステーションに勤務する看護師・介護士を対象とした。

(2)調査票の配布・回収：調査は、郵送による無記名自記式質問紙調査により行った。調査協力に同意が得られた施設に対して調査票を送付した。

(3)調査内容：医療施設との情報共有の方法、看護退院サマリーの保管方法、送付された看護退院サマリーの情報共有の現状について調査を行った。

(4)調査期間：平成22年8月～平成23年3月

【調査2】看護退院サマリーによって情報を共有される患者・患者家族の思い

(1)対象：A県内の一般企業に勤務する意識レベルが清明で、意思決定のできる成人とした。

(2)調査票の配布・回収及び面接：調査は、郵送による無記名自記式質問紙調査及び一部インタビューガイドを用いた面接調査により行った。調査協力に同意が得られた企業の2部署に対して調査票を送付し、回答が得られた対象者で同意が得られた者に対して面接調査を実施した。

(3)調査内容：年齢、性別、入院の有無、受診状況などの一般情報、看護退院サマリーによる施設間の情報共有に関する知識、看護退院サマリーによる情報共有に対する意識について調査を行った。

(4)調査期間：平成23年10月～平成24年12月

4. 研究成果

【調査1】

A県内にある介護老人保健・福祉施設、訪問看護ステーションのうち、同意が得られた93施設から、看護師99名、介護関連職種74名から回答が得られた。

(1)医療施設との情報共有の方法

医療施設からの情報提供の方法として、看護退

院サマリーと回答したものが 97.9%であり、70.8%のものが医師からの紹介状と回答し、退院前調整会議(37.5%)、口頭での連絡(43.1%)、その他(25.7%)と回答した。援助にもっとも参考になる情報源として、看護退院サマリーと回答したものが 71.5%であり、次いで、退院前調整会議(20.8%)、医師からの紹介状(15.3%)、口頭での連絡(5.6%)と回答した。

(2) 看護退院サマリートの保管状況

病院から送られた看護退院サマリートの保管場所は、ナースステーションが 77.1%と最も多く、ナースステーション以外の事務所が 6.9%、その他 26.4%だった。保管する棚の施錠の有無は、施錠できると回答したものは 58.9%であり、そのうち施錠をしていると回答したものは 51.3%だった。施錠できない棚に保管していると回答したものと、施錠できる棚であるが施錠をしていないと回答したものをあわせると 70.1%となった。

(3) 看護退院サマリー情報共有の制限

看護退院サマリーに記載されている情報について、施設内で情報共有をする相手及び共有する内容の制限の必要性について尋ねたところ、制限の必要があると回答したものは 22.9%であり、その理由については患者・家族へのプライバシーの保護と回答したものが 69.7%、職種によって情報の必要性が違うと回答したものが 45.5%であった。一方、制限の必要がないと回答したものは 76.4%であり、その理由は、チーム医療のため情報共有が必要であると回答したものが 85.5%、情報共有をする相手が専門職であるためと回答したものが 45.6%だった。その他、職員が情報漏洩をしないことが前提であるから、ケアのため必要であるから、必要な情報であると病院が判断して記載しているから、という回答もあった。送られた看護退院サマリーを患者・患者の家族と共有していると回答したのも 6.3%いた。

(4) 看護退院サマリー情報の共有

看護退院サマリーに含まれている、病名、既往

歴、内服薬、感染症、IC の内容、ADL、家族構成、家族との人間関係の 8 項目について、施設内でのような職員と共有をしているか、選択肢を提示し質問したところ、患者を直接担当していない看護師、介護関連職種、医師、事務職員など、施設内のすべての職種と共有していることが明らかとなった。

【調査 2】

A 県内にある、調査に同意が得られた 2 企業 3 部署に勤務する成人を対象に調査を送付し、42 名(回収率 22.7%)から回答が得られた。そのうち、同意が得られた 3 名に対してインタビューを実施した。

(1) 看護退院サマリートの認知度

看護退院サマリーについて「知っている」と回答したものは 4.2 パーセントだった。また、医療機関に受診をしたときに、看護退院サマリーについて説明があったと回答をしたものは 12.5%だった。診療に関連して、他施設に看護退院サマリーによって情報提供をすることについては、58.3%が「積極的に情報共有をしてほしい」と回答し、41.7%が「内容による」と回答した。

(2) 看護退院サマリーによる情報共有に対する考え

看護退院サマリーに含まれる項目 15 項目を上げ、どの程度詳細に情報が記載されてもよいのか、またどの程度プライバシーに配慮してほしいと考えるか、四検法で回答を求めた。情報の詳細さについては中央値を求めた。「職業」、「家族」など生活関連情報については「概要のみ」と回答するものが多い傾向にあり、「病名」、「治療内容」、「感染症」、「病気の経過」、「心理状態」などの治療関連情報、「食事」、「排泄」などの介護関連情報は「できるだけ詳しく」と回答するものが多い傾向であった。プライバシーへの配慮については平均値を求めた。平均値が 1.80 以上でプライバシーへの配慮を求める傾向にある項目は「病名」、「既往歴」、

「治療内容」、「感染症」、「病気の経過」、「心理状態」などの治療関連情報だった。一方平均値が1.6未満でプライバシーへの配慮に対する意識が比較的低い項目は「食事」、「排泄」、「入浴」、「装具」など介護関連情報に多かった。

(3) 施設間の情報共有に対する思い

質問紙調査に回答が得られた対象者のうち、同意が得られた3名に対して、インタビュー調査を行った。病院内に個人情報取り扱いに関する掲示があることについては、2名のものが知っていると回答した。しかし、詳細までは読んだことはない、と回答した。看護退院サマリーの情報について、家族に関する情報など治療に直接関連しないと考えられる情報については、信頼できる医療従事者のみに伝えてほしいと回答をした。また、看護退院サマリーによる情報共有にあたっての情報の詳細さについては、自分自身の場合と家族の場合では異なり、家族の場合はできるだけ詳細な情報を、できるだけ多くの医療従事者に伝えたいと回答した。その際に、回答したくない情報について情報提供を求められたらどうするか、という質問に対しては、診療上必要であるならば提供する、と回答をした。